石川県白山自然保護センター研究報告（2022）
第48集：43－46

登山道における能登ヒバ材工作物のクマ被害について（中間報告）

宮　崎　顕　治

石川県白山自然保護センター

Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*) damage to Noto Hiba woodwork on mountain trail (interim report)

Kenji MIYAZAKI

Hakusan Nature Conservation Center

はじめに

ツキノワグマ（*Ursus thibetanus japonicus*；以下，クマ）によって登山道などの山地に設置する標柱・案内板などがかじられ，管理上の問題となることがある。そこで，医王山での木製工作物のクマ被害状況について，宮崎（2021）で中間報告したところである。

この報告で被害はスギ材などの塗装材だけでなく，耐久性の高さから近年利用の増えてきた無垢の能登ヒバ材（以下，ヒバ材）であっても被害を受けていることを被害状況調査として紹介した。2021年は，このヒバ材被害の再現性を確認するため調査エリア及び箇所数を拡大し，また，全箇所で無垢のスギ材との比較を実施したので報告する。この他，

写真２　道標板面黒色毛付着状況

写真１　2021年５月の被害状況（箱屋谷山）

写真３　2021年12月の４回目繰返し被害状況

2021年はクマによる工作物被害が多発する年となり，この被害状況についても併せて報告する。

被害状況調査

2020年は，医王山中央エリアにて各ヒバ材工作物の被害を調査し，2016年に設置した道標・ベンチ19基中14基で被害を確認した。2021年は，2016年設置工作物の無い箱屋谷山などにも調査を拡大し，また，近年，ヒバ材工作物の設置がある白山エリアの岩屋俣谷探勝路・根倉谷園地などでも同様の調査を６月から８月にかけて実施した。

医王山エリアでは，2020年調査では年内に被害を受けたと思われる新鮮なヒバ材工作物の被害が無く，また2021年４月調査でも新鮮な被害の確認は無かった。しかし，５月調査では，新鮮な能登ヒバ材被害が，西尾平付近のベンチ１基，箱屋谷山山頂付近での標柱２本の繰返し被害を発見した。これを皮切りに，翌月以降，調査する度に，毎回新しい被害を発見することとなった。

この被害の中には箱屋谷山付近で，５月から12月の間に４回繰り返しを受ける道標があり（写真 1, 3），この道標は５月の被害発見時に，行先を表すアルミ製の板面やかじった部分などに大量の黒色毛が付着しており，道標をかじった後に身体を擦りつけていることが示唆された。（写真２）また，８月にはしがらくび付近で，2016年の新設以降被害が無かったベンチの被害を確認した。

この被害多発は医王山エリアだけではなく，白山エリアでも同様に見られ，根倉谷園地では，７月に既に苔むしているようなベンチがかじられる被害を発見し，（写真４）また，岩屋俣谷探勝路でも６月から７月にかけて新鮮な道標・ベンチ・案内板などの被害が複数確認されることとなった。

写真４　根倉谷園地7月ベンチ被害

この他，４月の調査で，医王山のヒョットの宮付近で2013年設置ヒバ材道標の既に年数を経過した被害を発見している。

再現性調査

2016年以降，医王山での木製工作物の設置が無かったため，同様の被害が起きるかどうか再現性を調査するため，2020年にヒバ材の端材（15cm角程度，L=60 ～ 80cm程度）を調査材料として登山道周辺に配置した。しがらくび，覗休憩所，地蔵峠の３地点で実施し，2021年は，この材料をスギ材と並べるため再設置し，これに西尾平，白兀山下，大池平上の３地点を追加して計６地点で調査した。加えて，６箇所ともヒバ材の横に無垢のスギ材（L=40cm程度，幅25cm程度，厚さ10cm程度，以下スギ材）を配置し，ヒバ材との比較対象とした。（図１）

位置はいずれも登山道付近の林内で，５地点で土中に建込み，地蔵峠では昨年に引き続き，木の幹に結束用バンドで固定した。

2021年の設置は，10月21日にヒバ材及びスギ材を西尾平及び白兀山下の２地点に配置し，また，同月29日には大池平上で材料等を他の地点同様に設置し，同年11月４日に全６地点で被害状況を確認するために自動撮影カメラ（以下，カメラ）を設置した。

写真５　覗休憩所７月　倒されかじられた材料

調査結果

2020年からの継続調査地点では，2020年11月に地蔵峠のヒバ材がかじられ，2021年10月には結束バンドが外され，バンド固定部分に歯形が残されていた。地蔵峠以外の前年設置の２地点では，2021年７月に

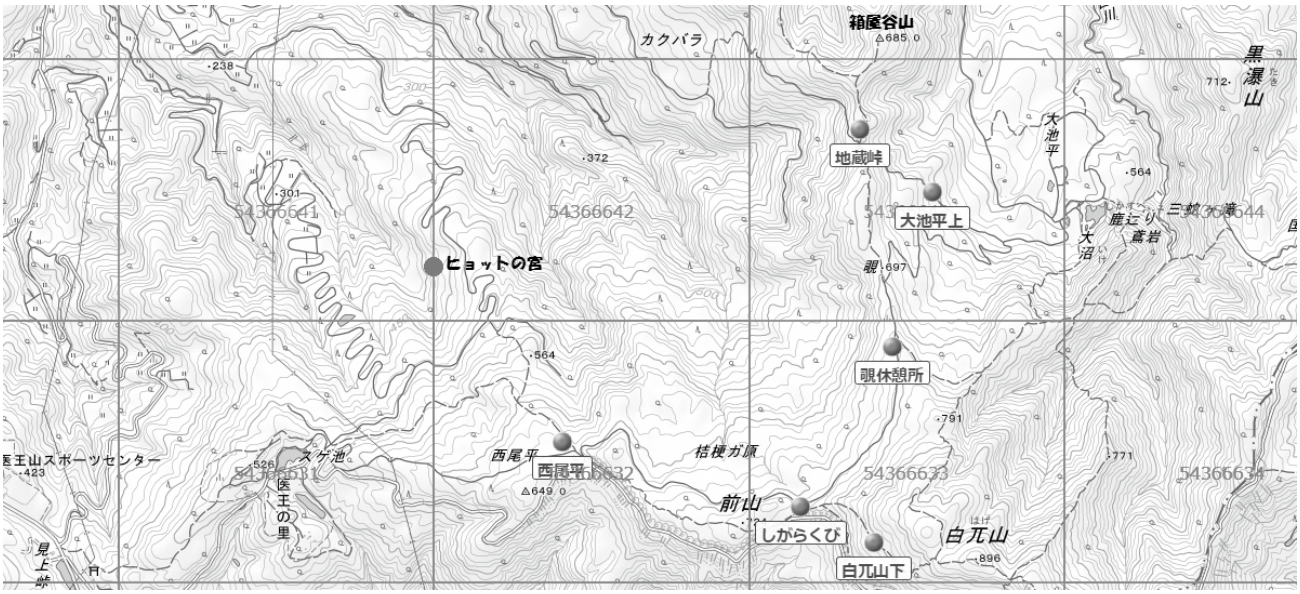

図１　2021年再現性調査等の位置（1 kmメッシュ）

※掲載地図は国土地理院ウェブサイトを使用

表１　再現性調査の流れ

時期	調査位置・調査内容・事象					
	しがらくび	覗休憩所	地蔵峠	西尾平	白兀山下	大池平上
2020年５月	ヒバ材設置	ヒバ材設置	ヒバ材設置			
11月上旬			かじられる被害確認			
11月中旬			比較スギ材設置，カメラ設置			
2021年７月		かじられる被害確認				
８月	かじられる被害確認					
10月中旬	スギ追加設置	スギ追加設置		ヒバ・スギ追加設置	ヒバ・スギ追加設置	ヒバ・スギ追加設置
10月下旬					爪立てられ倒される	
11月上旬	カメラ設置	カメラ設置	カメラ設置	カメラ設置	カメラ設置	カメラ設置
11月下旬				かじられる等の被害		

は覗休憩所付近で倒され，かじられる被害が（写真5），８月にはしがらくび付近でかじられる被害が確認された。この結果，2020年設置の３地点全てで被害が確認されることとなった。この２地点でもかじられた部分には黒色毛が付着していた。なお，しがらくびの被害は，材料を４つ切りにした予備材料を横倒しのまま置いていたものである。

2021年設置材料の変化はすぐに現れ，10月29日には，８日前に設置したばかりの白兀山下の材料が，ヒバ材は天頂部に爪を立てられ，また，スギ材も含めて山側に押し付けるように倒され，泥を擦ったような跡が特にヒバ材の側面に多く着いていた。（写真６）

さらには，同年11月30日に，西尾平のカメラにヒバ材を倒し，かじり，また，スギ材は，匂いを嗅ぐなど興味を示すものの倒すだけに止まった状況が撮影された。

撮影された映像では，まず調査地点に近づき，ヒバ材とスギ材を見て，それぞれの匂いを嗅いだ（写真７，８）その後，横顔を能登ヒバ材の先端部分に擦り付けた（写真９）。そして，右前足でヒバ材を引き倒した（写真10）。スギ材も匂いを嗅ぎながら左前足で引き倒した。（写真11）その後，再びヒバ材の匂いを嗅ぎ，横顔を擦り付けてから，材にかぶりつき噛んでいる姿が確認された。（写真12）その後，かじり取った部分に横顔の左右とも盛んに擦り付ける様子が見られた。（写真13）その後，スギ材に興味を示し，盛んに匂いを嗅いでいたが，かみつくことは無かった。（写真14）そして，再びヒバ材の匂いを嗅ぎ，カメラの前から去っていった。（写真15）

考　察

再現性調査では，2020年設置の調査箇所３箇所全てで被害が再現されることとなった。また，被害状

写真６　白兀山下　設置後間もない被害

況調査では，設置後，少なくとも５年以上経過してからの初被害も複数発見された。以上のことから，材の新旧を問わずヒバ材に対して何らかの嗜好性を持っていることが推察される。次年度以降は，医王山中心部以外での被害調査を拡大し，また，白山など他のエリアでの被害調査を行う予定である。中心部では，引き続き自動撮影カメラによる観測を実施し，今回の西尾平では，月の輪の形が確認できているので，同一個体による被害かどうかをまた，スギ材との比較について確認する。

引用文献

宮崎顕治（2021）医王山登山道における能登ヒバ材工作物のクマ被害について（中間報告）．石川県白山自然保護センター研究報告，47，45-46

写真７　ヒバ材匂う

写真８　スギ材も匂う

写真９　ヒバ材擦り付け

写真10　ヒバ材引き倒し

写真11　スギ材引き倒し

写真12　ヒバ材かぶりつき

写真13　顔面横擦り付け

写真14　スギ材で遊ぶ

写真15　またヒバ材を匂う